

龍源寺報

令和3年 秋彼岸号

臨濟宗・妙心寺派	住職 松原信樹
佛母寺住職 松原覚樹	正福寺住職 松原行樹
TEL	3451-1853
FAX	3451-6094

振込 00160-0-104918

東京都港区三田5丁目9-23 (郵便番号 108-0073)

Email: info@ryugenji.com

URL: http://www.ryugenji.com

秋彼岸に思う

松原 信樹

自然の姿は美しい。多くの自然保護活動の根本に、自然を守り、その一員としての人間に目覚め、あらゆる自然と生き物との共生を重視することが叫ばれている。ただ、自然には、必ずしも人間に恵みを与えるだけのことではない。時には、地震や噴火、洪水や氾濫、飢饉や災難、病魔や細菌といった形で、恐ろしい天変地異や災害となって突然、私達の生活に襲いかかる。しかも、自然の中には弱肉強食の厳しい理法が貫通している。したがって、このような自然の中にあつて、私自身を含め、全ての生き物は、自分をしつかり守り、自分を滅ぼす恐れのある外敵や天敵、細菌や害虫、病因や災難に対して注意深い自己防衛策を講じ、厳しい生存競争の世界を生き抜いて行かなければならないことになる。

美しい自然や、恐ろしい自然のあり方は、私が「私とは何か」という自問自答をする時、鋭い形で私に迫ってくる。つまり、生きた自然のあり方は、そのまま自分自身のあり方のうちに跳ね返ってくるが、コロナ禍の今や、災難に遭

遇した時、自己の中に恐ろしい自然の姿が露わに出現してくる。だから、中国の孟子のように、人間には生まれながら、惻隱(「あわれみ」、羞惡(「不義をにくむ」、辭讓(「へりくだり」、是非(「正・不正の判断」)の四端(「徳に向かう根源的感情」)の心をもっていて、これをよく養って拡充すれば、仁・義・礼・智という四徳が成立し、天下を平安にすることができるといふ性善説の考えが登場したし、他方で、荀子のように、人間の性は元來惡であり、軌範を定め、教育によって礼儀を教えることによつてのみ、人間は道理を知り、世の中も治まると説く性惡説の考え方も登場した。つまり、荀子は、人間の内に自分を改良しうる性善の要素をもつたものと捉えていることがわかる。そして、どのような形にしる人間は、他の様々な人とともに共生しながら、自然の恩恵を受けて生活している。

このようなことから、自然および人間の内には、修復され改善されながらも、善の出現が可能であると思なされてよいのではないだろうか。テレビのニュースで新型コロナウイルスに何人感染したかという数字や、大雨などによる自然災害の報道を毎日のように見せられている。不安な日々が続くが、一人の僧侶として、善き日を祈る日々である。

柳 緑

秋彼岸会を迎えます。皆さま

いかがお過ごしでしょうか。

コロナ禍ということもあり、

花 紅

坐禅会、企業の研修会や講演

会などほぼ全てを休会となった

ため、昭和元年（一九二六）に建立され

た古い書院の改修工事に着手しました。

約百年の年月が経つ建物は傾き、すきま

風が入り、冬などとても寒い書院ではあ

が、時間が醸し出す趣がこの書院にはあ

り、今後も大切に維持していきたいと

思っています。▼七月七日に祖母志ず、

七月二十九日に泰道和尚の十三回忌法要

を寺族で行いました。祖父の書籍、原稿

など整理するのに十年の月日を費やし

ました。書籍の中のアンダーラインや書

き込みをみますと感慨深いものがありま

す。經典の解釈など、年齢を経て深まる

ことを実感しています。老漢の遺志を受

け継ぎ、精進していきたいと思えます。

茉莉花など祖母が植えた数々の植物が今

年も咲き誇り、コロナ禍にも関わらず、

境内を賑やかにしてくれています。▼夏

休みの間、アメリカにいる仏母寺住職の

弟と、私にとって姪にあたる子供二人が

二ヶ月ほど龍源寺に滞在していました。

弟の日本での仕事について、私自身、直

接関わりませんが、とても忙しく充実し

た時間を送っているようでした。一〇四

歳の祖母はコロナの関係で病院のお見舞

いが叶わず心配しております。先生の連

絡によると元氣にしているようで母も安

心しているようです。妻の亜矢は、会社

とお寺の仕事と娘のことで毎日忙しくし

ています。娘の瑞樹は、九月十日から分

散登園という形で幼稚園がはじまります。

早くお友達に会いたいようで、登園の日

を楽しみにしています。▼国際情勢の関

係もあり、学生時代そして副任職時代に

踏査した新疆ウイグル自治区、パキスタ

ンなど仏教東漸の遺跡を実際に自分の目

で見ることが難しい時代になってしま

いました。龍源寺でも頻繁にツアーを行っ

ていました。今となってはとても貴重な

機会だったと言えます。フィールドワー

クを日課としていた父・哲明和尚の「知

識に身体性を伴わせる」という教育法は、

大変有効なものだと子供を持って改めて

感じた次第です。そういえば、父の前で、

小学生時代、本堂で何日かかけて、最初

から最後まで『徒然草』を大きな声で読

んだのを思い出します。娘と『論語』の

素読でも一緒にしようかなと思う今日こ

の頃です。▼龍源寺の今年度の諸行事に

つきまして、現状では感染対策を十分に

行った上で、可能な限り開催できるように

計画しておりますが、今後のコロナ感染

者の数字の推移や、ワクチン接種後の効

果についての国の判断などを見守りなが

ら、行事開催の規模縮小や、延期・中止

について、適宜判断せざるを得ない可能

性があります。今後ともご迷惑をお掛け

することになるかと存じますが、引き続

きご理解とご協力のほど、何卒よろしく

お願い申し上げます。▼九月二十三日

（秋分の日）、午前十一時より秋彼岸会を

厳修致します。ご欠席の方でも御回向さ

せていただきます。ご出席の方は、外階

段を使ってお焼香もできますし、本堂

の中で距離をとってのお参りもできます。

どうか気をつけて御来山ください。よろ

しくお願い申し上げます。（信樹）

ご寄付

金八万円 渡辺和子殿

金五万円 渡邊道子殿

ありがとうございました

※大変貴重なご寄付をありがとうございました。現在龍源寺のある古川橋周辺は、大規模な再開発が行われております。そのような中で、寺院を文化資源の一つとして考え、境内整備に力を入れております。未熟者ですが今後とも宜しくお願い申し上げます。

松原信樹

秋彼岸法要

一、九月二十三日（秋分の日）

午前十一時より

・駐車場はありません。

南北線をご利用ください。

お願い

※新型コロナウイルスの感染拡大予防のため、本年の秋彼岸の法要は、階段・エレベーターを使って、お焼香をお願い致します。午前十一時より、読経時間は二十分です。その間にご来山下さい。

茸ごはん

松原静子



秋は、たべものが豊富で食が進む季節ですね。

わが家では、この時期、茸きのこごはんごはんにいたしますと、家族全員、何杯も、おかわりいたします。

お弁当にしてもいいので、一人分ぐらい、多めに炊いてみてはいかがでしょう。

五人前の材料は、米四合、もち米一合、シメジ二百ムクラ、油あげ三枚、鰹節だし四フカ半、酒カッ1/2フカ、味ミ

鰹かん節だし二杯、醤油大き三杯、塩少々。

油あげは湯通ししてたんざく切りに、シメジも二センチほどに切って洗ってください。

だしの中に、シメジ、油あげ、酒などの調味料を入れ、沸騰したら火を止めます。

釜に、水を切ったお米とだしを入れ、具も米の上に乗せて炊き上げます。だしの分量が足りないときは水をたしてください。

茸は、ホンシメジ、アマタケなど、たくさん種類を使った方が、いい味ができます。

色どりに、ぎんなんを入れてもきれいですね。